

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2023年5月

第109号

主な予定

園内ガイド

5月14日(日)

9:00~12:00

東葛自然観察会(40名)

5月23日(火)

12:55~13:35

柏第四小学校(128名)

6月7日(水)

14:00~

増尾西小学校(88名)

6月9日(金)

9:00~10:00

松葉第一小学校(159名)

理事長退任にあたって ~私が伝えたいこと~

顧問 岡本昇

2022年の暑い夏が終わり、爽やかな秋風が木々の間を通り抜けて行く日が続いたある日、森の神様が私の耳元でささやきました。「もぉーござらで わげえもんにまがせたらいがっぺ」と、ふるさとの訛りで。

先般行われた第14回総会において、任期満了に伴い理事長の職を退任させていただくことになりました。

私を支えて下さったすべての皆様のお陰でこの3年間はコロナ禍やナラ枯れ被害に悩まされながらも、無事に任期を全うすることができました。これもひとえに各理事さんをはじめ会員の皆さん、柏市や地域関係者などすべての皆様にご支援いただき、務め上げることができましたこと、心より御礼申し上げます。

これまでの役員の日々を振り返ってみると、色々な出来事があたたかも走馬灯のごとく脳裏を駆け巡ります。様々な想いが蘇り、感慨深く思うとともに自然の森に接し、多くの学びに恵まれた色濃い年月であったことを実感しています。例会活動や園内ガイドはもとより、昨年の昆虫標本展示会、夜の昆虫観察会など、諸々の活動において本当にたくさんの方々に支えていただき、お力添えをいただきながら過ごしてきたことを身に沁みて感じています。様々な方と出会い、関わることを通じてお互いが支え合い、人の輪が広がっていく素晴らしさ。これらすべての経験が、今の私の生きる糧となっています。今日に至るまで私の歩みに関わってくださったすべての方に感謝いたします。この通信をお借りしまして心より重ねて感謝申し上げます。

今後は、できるだけNPOを陰で支えながら、日頃からの感謝の気持ちを忘れず、小さな喜びを大切にしながら、命の尽きるまで自己研鑽を重ね、皆様のお役に立てますよう努めてまいりたいと思います。世にいう後期高齢者の仲間入りをしましたが、温かく見守って頂けたら幸いです。

今年になって嬉しいことが続けて三つありました。2月に通称「こんぶくろ池物語」の重版が発行できたこと、3月に公益社団法人日本ユネスコ協会連盟より「プロジェクト未来遺産」として登録されたこと、そして4月には、会員が実生から育て園内の適所に移植したズミのうち2本が初めて花を咲かせたことです。これらはいずれも会員の皆様の活動の成果が実ったものと言えるでしょう。先輩たちが築かれた小さくともきらりと光るこんぶくろ池自然博物公園は、植物以外にも非生物学的、歴史的な遺産など貴重なお宝がたくさんありますの

で、子供たちの世代へ、またその子供たちの世代まで生物多様性の森の保全活動が永続的に続くことを願ってやみません。

最後に、当自然公園には多種多様な樹木があります。よく見ると木のねじれや枝ぶりなど性質には癖があります。先々月、私が訪れた故郷の古い土蔵を改造した料理屋さんの入り口付近に「塔組みは木組み」の額が目に入りました。強く印象に残ったので手帳に書き写して帰宅しました。後で調べたところ法隆寺の棟梁の家（西岡家）に代々伝わってきた口伝を簡潔にまとめたものとわかりました。

塔組みは木組み
木組みは木の癖組み
木の癖を組むには人を組め
人組みは人の心組み

最近、年の所為でしょうか、この言葉の重みをつくづくと感じるようになってきました。紙面の関係で細かい説明は省きますが、法隆寺の用材は木の生育の癖を組み合わせてできている。一生でそう何度もあることではない堂塔の建築は、一人ではできません。大勢の工人の力を結集して出来上がるもの。力を結集するというのは心一つにすること。その一人ひとりが棟梁と同じ心を持つようにしなければこの大事業（活動）はうまくいかない。大勢の職人の心を棟梁の心構えと同じように仕事に立ち向かう心構えにしなければならぬ、それには職人の心を汲んだ思いやりがなければならぬ、の意味と思われまふ。

NPOの活動にあたって入会時の動機は人それぞれですが、自然公園の保全再生活動を次世代に永続的につなげていくためには「塔組みは木組み」の心構えと、お互いが思いやりの心を持って取り組む必要があろうかと私は思います。

組織を運営していくにあたり、できるだけこの心構えと思いやりの心を大切に、会員の皆さまとともに、さらに魅力ある100年の森を育てていく一助となれば幸いです。

花野井香取神社の算額

橋本谷 弘司



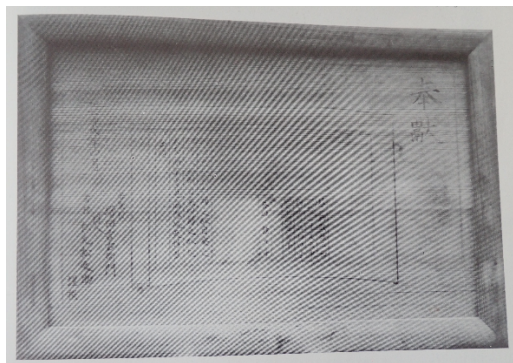
花野井香取神社

柏市教育委員会は昭和59（1984）年に社寺の絵馬について調査を行いました。その時に花野井香取神社で算額が見つかりました。柏市内では唯一の算額です。

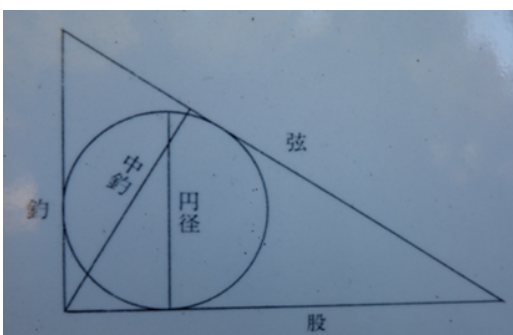
算額とは、社寺に奉納された和算（日本古来の数学）の絵馬のことです。問題が解けたことを神仏に感謝することや和算にも色々な流派があり、自らの流派の宣伝や高度さを示すための発表の場として奉納されていたようです。

主に和算を学んでいたのは村役人層で、土地測量や治水などの計算に利用するため、高度な数学を修めることは村を維持管理していく上で重要であり和算家を招き学んでいました。

香取神社の算額は若柴村の名主増田吉右衛門とその門人花野井村松丸松之助により明治7年（1874年）に奉納されたものです。この地域の文化の高さを示すものです。この算額の大きさ



花野井香取神社の算額
(柏の絵馬：柏市教育委員会)



算額の問題

は、縦 52.5cm、横 76.5cm です。不鮮明ですが問題の内容は、「釣+股+弦=12、中釣+円径=4.4 の時に弦の長さを求めなさい」というものです。

答えは5になりますが、かなり手ごわい問題です。解法を知りたい方は、花野井香取神社境内の解説板やネット等で調べて下さい。

現存する算額で最古の記年銘をもつものは栃木県佐野市の星宮神社に天和3（1683）年に奉納されています。徳川第5代将軍徳川綱吉の時代です。現在、全国で970面程度が現存しているとのことです。

明治の中頃には、和算から西洋数学への流れとなりましたが、算額は大正、昭和期以降も奉納されています。

近年、公益財団法人日本数学検定協会は、毎年1月23日を「算額文化を広める日」と定め、2015年から奈良県の東大寺に算額を奉納して解答を募集しています。2021、2022年は諸般の情勢でこのイベントを中止しています。2023年には問題の公開は行っていますが、奉納式典及び解答の募集は休止しています。今後の再開が望まれます。



花野井香取神社境内の算額の解説版



東大寺の算額（HP より）

ズミプロジェクト

ズミプロジェクト有志

今春、ついに、ツリフネソウエリアに植栽したズミが開花しました！

当 NPO のズミ保全再生プロジェクトは、2019年1月に森田さんをプロジェクトリーダーとしてスタートし、昨年まで3シーズン、実生苗の植栽を実施し、そのフォローアップを継続してきました。植栽については、まだ里親宅に残っていた苗を今年3月に植栽していったん終了とし、今後、ズミに関する活動は、開花を区切りとしてプロジェ



写真1 (天然実生稚樹、樹高30cm) 2022.5.15 撮影



写真2 (天然実生稚樹、樹高35cm) 2023.3.19 撮影



写真3 (苗番号1、2013年播種、地際径4.0cm、樹高160cm) 2023.3.11 撮影

クトという位置づけをやめ、通常の活動に組み入れます。トピックがあれば会報等で紹介することとします。

以下にズミプロジェクトの経過概要を、プロジェクト実施を通じての考察を加えて報告します。

1. 保全

- (1) 2022年の成木の開花・結実状況の詳細については橋本谷さん作成別紙のとおり(本記事では省略)。
- (2) 成木にからまった蔓の除去や成木周辺の下刈りを逐次実施。
- (3) 地金堀南岸にアジア航測の札が付いたズミ成木があり、成木管理番号No.50を付番。こんぶくろのズミの天然実生稚樹が大変少ない理由については、いくつかの仮説があるが、久しぶりに、地金堀北岸に天然の実生稚樹1本(樹齢推定2~3年)を発見し(22年4月)、No.51を付番(写真1、2)。
- (4) 昨夏の渇水期頃から、下3分の2くらいの枝の葉がすべて茶色く変色してしまった成木が目立った。そうした枝には実は見られなかったが、上3分の1の枝には実が生っており、今春には、全体に葉が繁っている。明らかに隔年開
- (5) 花・結実の現象が見られる成木(No.35など)がある。

2. 再生

(1) 実生苗づくり

- ① ズミの実の果肉を除去した種は、黒くて固い米粒大であれば、用土を選ばず、発芽率が高い。
- ② 播種のタイミングについて、12月の冬播きと3月上旬の春播きの成長差は、夏にはなくなる。
- ③ 本葉が出て主枝がしっかりしてきたら1本立ちにし、その後一年以上、管理下で適宜植替え等をすれば、苗は大きく育つ。

(2) 実生苗の植栽

- ① トータルで130本以上の実生苗を植栽した。そのフォローアップの状況の詳細については別紙のとおり(本記事では省略)。
- ② 上記(1)③のようなしっかりとした、特に地際径の大きな苗を一定数選んで現地に植栽する方が、数多く植栽するより



写真4 (苗番号1の蕾)
2023.3.22 撮影

も、その後のフォローやノウサギ被害回避（後述）も含め、ズミ再生のための効率的な手順と考えられる。

- ③ 20～30cm間隔での2、3本密植を数か所試してみたが、どれも良く育っている。

(3) 植栽苗の生育状況

- ① 植栽エリアを比較すると、日当たりが良く、地下水位の高いエリアで良く育っている。特に、光環境の良し悪しが、成長に大きく影響している。したがって、同じ時期に播種した苗でも、成長の個体差は非常に大きい。
- ② 今年3月21日、2013年播種の植栽株に、待ち望んでいた複数の蕾を発見した（写真3、4、5）。その後、他の2013年株2本と2018年播種株1本（写真6）の開花を確認した。



写真5 (苗番号1の開花)
2023.4.10 撮影

(4) 植栽苗のフォローアップ

- ① 自然に枯死した例はほとんどないが、ノウサギによる新芽食害や倒木、業者による伐木作業や自然落枝の下敷きになるなどの被害があり、年月の経過によって生き残る株数は減っている。
- ② 特に、年にもよるが、ノウサギの食害例が多く、対応策が必要となった。景観やコスト等を考慮し、棒立て法を試してみたが、苗の周囲を高い棒（落枝）で密に囲めば十分に効果がある。また、ある程度大きく（ノウサギが後ろ足で立つ高さより高く）育った苗にノウサギ被害は見られない。
- ③ 今後も植栽苗のフォローアップは継続するが、多くは周囲の植物と競争できる状態にまで育っているため、基本的には自力の成長力に委ねることとする。

* * *



写真6 (苗番号18、2018年播種の開花) 2023.4.10 撮影

ズミの花言葉は『追憶』……思い返すと、4年余に及ぶズミプロジェクトの実施中にも様々なことがありました。植栽した苗の中で最も古い株は、中庭さんが個人的に育ててきてくださったもので、今年で播種からちょうど10年になります。リンゴの苗は播種してからほぼ10年で開花・結実すると言われておりますが、上記の通り、今年初めて、発芽から10年の3株の開花を確認し、また、なんと、山下さんが育てられた発芽から4年の、一昨年に植栽した株1株も開花しました。いずれも、ツリフネソウエリア及びその北側に植えた株ですが、来年以降、他のエリアの植栽ズミの開花・結実も期待されます。

(文責：山上)

4 月理事会

(日時) 2023 年 4 月 23 日 (日) 15:00~17:00
 (場所) 管理棟前フジ棚下
 (出席者) 議長 (理事長)：萩原
 出席者 (理事) 上田、徳永、中川 (書記)
 (会計) 山上・(顧問) 岡本・(監事) 松田

1. 審議検討・確認事項

- (1) 「プロジェクト未来遺産 2023」の登録証伝達式について
 - ・ 7 月 15 日 (土) 開催が決定。時間は現時点では未定。
 - ・ 柏市長より祝辞をいただける予定。
 - ・ 審査員であった土屋先生に「里山保全と SDGs」をテーマとするミニ講演を依頼中。
- (2) ユニフォームの購入及び今後の取扱について
 - ・ 30 着 (2,560 円/着) を発注済み。納期は 5/12 の予定。
 - ・ 今後はユニフォームを渡す際に「貸与を原則とする」旨を伝えることを徹底する。
- (3) 当園リーフレットの一部修正&増刷
 - ・ 発注先は前回と同様の柏工房。発注量は 5,000 部とする。
 - ・ 修正箇所の取り纏めの担当は徳永理事とする。
- (4) 第 14 回通常総会後の業務について
 - ・ 千葉県への事業報告 (環境生活部県民生活課 NPO 法人班) (~5/6) (中川)
 - ・ 千葉地方法務局での代表者変更登記 (~5/6) (中川)
 - ・ 損保更改手続き (5 月中) (山上)
 - ・ (5 年毎の) 法人税減免申請手続き (⇒柏税務署) (今年度中) (山上)
- (5) 年度始めのイベント準備・関係先挨拶について
 - ・ (4/22 実施) T-SITE イベント担当者との打合せ結果について先方は協力的スタンス。今後のイベント共催のためには T-SITE との契約締結要。
 - ・ 7/22 夜の昆虫観察会は開催方向で準備を進める。またその他イベントについては NPO の余力も含めて継続検討
 - ・ (カシニワ期間中の 5/21 (日)) 当日受付自然観察会
当日午後の案内担当は契約当番が担当する方向で検討。
カシニワ期間中はカシニワの旗を立てる
 - ・ (6 月中の) 標本展示会
まずは上田理事が 6 月中に UDCK の会場を予約できるかどうかを早急に確認する。
 - ・ 三井不動産挨拶
萩原理事長と辻村氏が早めに挨拶訪問を行う。
- (6) 5~6 月活動計画
 - ・ 協議を実施し、計画を策定した。
- (7) 5 月の通信記事
 - ・ 掲載記事について協議した。

2. 報告事項

(1) 園内ガイド

- ・ まつばウォーキング同好会／「あるき隊」(18名) (4/14 10:30～12:00)

(2) その他

- ① 一号近隣公園秋水燃料庫保存打合せ (3/28 11:00 現地)
(文化課・柏歴史クラブ・NPO (岡本・中川))
- ② 水環境打合せ (4/10 10:30～12:30) (東大佐藤先生・上田・川瀬・山上・岡本・中川)
- ③ 東大 佐藤先生水質調査 (随時) (上田・川瀬・山上)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

今西 正晴さん



参加動機：こんぶくろ池の自然保護等活動をされているのを広報で知り、年齢的にも健康維持を兼ね、整備や調査を通して参加してみたいと思った。

貢献できそうなこと：造園・園芸、機械・電気・工具のメンテナンス

趣味・好きなこと：ウォーキング

取り組んでみたいこと：こんぶくろ池のこれまでの歴史を知り、里山として動植物の多様性、保全育成に参加していきたい。

ひとこと：この活動を通して、動植物の知識を深めていきたいと思います。